

岐阜高専 ハノーバー大学数学・物理学部包括交流協定締結

平成 24 年 9 月 24 日（月）ドイツ・ハノーバー大学気象・気候学科のグンター・グロス教授を講師に迎え、「環境気象におけるメソ およびマイクロ スケール気象モデルの適用性について」と題して、岐阜高専教員、専攻科・本科学生および外部からの聴講者に対して、講演会を開いた（写真 1）。地球温暖化の地域スケール気候への影響、複雑な空間構造を持つ都市域への緑被・緑地導入に対する表面気温の感度解析、風力発電の際の風車の最適配置等の工学的な問題へのマイクロ スケール気象モデルの適用性が示され、講演後には活発な質疑が交わされた。

また同日、岐阜高専 ハノーバー大学数学・物理学部の包括交流協定に北田敏廣校長がサインをして協定が成立した（写真 2）。学部長エルマー・シュローエ教授が、9 月 11 日（火）に事前サインした協定書をグロス教授が携えてきたものであり、教員、学生の交換を可能にするものである。ハノーバー大学は、9 学部、学生数約 23000 人のドイツを代表する大学の一つである。

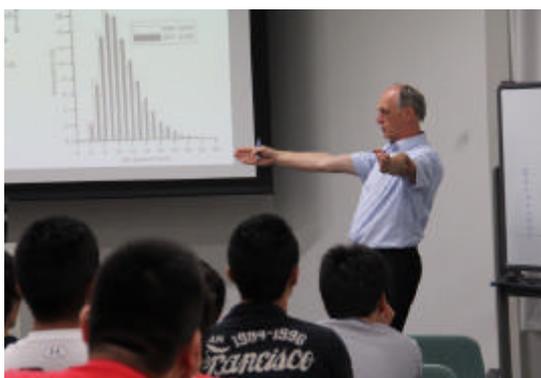


写真 1. 講演中のハノーバー大学グロス教授



写真 2. 協定締結後の岐阜高専・北田校長（中央右）とハノーバー大学学部長の代理・グロス教授（中央左）